

7 年 9 月 1 日

研究研修・調査報告書		会 派 名	新政会
		代 表 者 名	今竹 大祐
		無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	今竹 大祐		
	川端 宏明		
	藤森 誠		
	島津 明香 (26 日のみ)		
	岩見 明		
		入江 啓太	
研究研修・調査 日 程	7 年 8 月 26 日 ～ 7 年 8 月 28 日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地	
		北海道 室蘭市	
		研究研修・調査内容	
		地方再生コンパクトシティの取り組みについて	
	2	研究研修会開催地・調査先進地	
		北海道 千歳市	
		研究研修・調査内容	
		住生活基本計画「空き家の実態把握、空き家活用」、観光振興	
	3	研究研修会開催地・調査先進地	
		陸上自衛隊 北部方面隊 南恵庭駐屯地	
		研究研修・調査内容	
		海外派遣・災害派遣の状況と施設隊・戦車部隊について	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

1

研究研修会開催地・調査先進地

室蘭市役所 北海道室蘭市幸町 1-2

研究研修・調査内容

地方再生コンパクトシティの取り組みについて

室蘭市は、明治期の港湾整備を起点に、日本製鋼所M&E株式会社や日本製鉄株式会社など大手企業の進出により、鉄鋼・造船・石油精製などの産業で発展し、最盛期には人口16万人を数えていました。しかし現在は7万5千人へと半減し、人口減少は喫緊の課題となっています。

このため、公共施設や都市機能の集約が必須となっており、室蘭市では「室蘭市立地適正化計画」「室蘭市地域公共交通網形成計画」などに基づき、「コンパクト・プラス・ネットワーク」による持続可能なまちを目指し、都市機能誘導やそれぞれの拠点間を結ぶ公共交通の維持・充実を進めています。

具体的には、地形的に平地部分の多くを日本製鉄などの工場が占めることから、かつての中心街である室蘭駅周辺と、現在の中心地である東室蘭駅周辺に都市機能を誘導し、北部にあった運動公園やテニスコートなどの公共施設についても集約化を図っています。

特に注目すべきは、室蘭市が東京と並び全国で唯一、JESCOによるPCB処理施設を有している点です。環境省からの財源を活用し、地域整備にも寄与している事例は大変参考になりました。また、図書館と環境科学館を合築した「えみらん」の見学を通じ、施設の有効活用や地域拠点づくりの工夫を確認することができました。

<感想>

大手企業の動向が人口の増減に大きく影響する点、またPCBに関わっている点は高砂市とも共通する部分があり、今後の政策に活かすべき示唆を得ることができました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

2

研究研修会開催地・調査先進地

千歳市

研究研修・調査内容

住生活基本計画「空き家の実態把握、空き家活用」、観光振興

千歳市住生活基本計画は、令和４年度から１３年度の１０年間の計画です。

千歳市は令和１２年度まで人口増加を見込んでいましたが、最先端半導体工場である「ラピダス」の進出が決定し、令和１８年度まで人口の増加が見込まれ、住生活基本計画も中間年である令和８年度に見直しを行うことになっている。

人口増加に伴い、市内の地価も上昇しており、一戸建てや集合住宅の需要が旺盛であり、空き家の除却は年間１５０棟ほどされている。

古い市営住宅はエレベーターがなく高層階は人気がない、学生の住居も不足しているので、高層階の住宅を利用している。市営住宅は現在２４００戸あるが、長寿命化計画、改修や建て替えを行い、将来的には２１００戸程度にする計画である。

空き家対策に係る補助金等の必要もない状態である。令和１８年度以降人口減少局面では検討していく必要がある。

支笏湖を活用した観光振興については支笏湖が国立公園内にあるため、新たにホテルなどを作ることができないため、大規模な観光振興を行うことが難しい状態である。観光振興にかかる予算（インフラや環境保全等）もいることから、「宿泊税」を検討している。現在支笏湖温泉には７棟のホテルがある。

千歳市の視察で感じたことは

千歳市には新千歳空港があり北海道の玄関口として約 2400 万人が利用している。千歳市の人口は 9 万人余りで、自衛隊（家族も含む）が人口の約 25%を占めており、若い世代の人が多く、最先端半導体工場である「ラピダス」の進出により今後人口の増加が見込めるなど日本の中でも非常に恵まれた環境にある。今の高砂市で参考にできる部分は少ないが、高砂市もかつて同様の状態があったので、経済的に良い時にいかに、将来を見越して長期のビジョンを描くかが大切か考えさせられました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

3	研究研修会開催地・調査先進地
	陸上自衛隊 北部方面 南恵庭駐屯地
	研究研修・調査内容 海外派遣・災害派遣の状況と施設隊・戦車部隊について

南恵庭基地に訪問し 広報室にて先ず陸上自衛隊の組織編成や配置について概略の説明から、PKOをはじめとした海外派遣のこれまでの活動状況と災害派遣などでの過酷な活動について説明を受けた。我が国の活動が各国で高く評価され、また、被災地においても多大なる貢献を果たしている状況に敬意と感謝の念が湧きました。

さらに 建設技術を駆使し 国内外での復旧作業・施設建設の成果にも高い評価があることなど、日々の鍛錬の表れと感服した。

他国が攻め入らないように あるいは攻め入られたとしても 全力で阻止するための訓練が行われていることなどの説明を受けたのち、広報館内の展示を拝見し、基地の歴史・役割などの変遷を学んだ。

その後、基地内を見学し 91 型戦車の見学者搭乗席に乗り、戦車の動きを体験させて頂きました。これとて、過酷な環境の中で訓練に臨む隊員の状況を垣間見ることができた。

今回、ごく僅かではあるが 陸自の活動状況を拝見する中で 日々の鍛錬が私たち国民を守るためであることを再認識した。また、それらの期待に応えようとする姿に安心感も得ることができた。

ただ、最近では入隊希望者の減少が見られ 人材確保も大きな課題であることや、近年の温暖化の影響で高温が続く中、宿舍の空調施設の設置がままならぬ状況であり、施設の更新も迫る中、少なからぬ課題に直面していることも見られた。